

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 熊谷市立久下小学校 (※正式名称を記載)  
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注1  
☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校  
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校  
☐ 特別支援学校  
☐ その他（例：小中高一貫 \_\_\_\_\_）  
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む  
所在地 〒360-0026  
E-mail \_\_\_\_\_  
Website \_\_\_\_\_  
幼児児童生徒数 男子 149 名 女子 118 名 合計 267 名  
幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～12 歳

## 2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

### ①環境教育（熊谷市に住む絶滅危惧種ムサシトミヨの保護・繁殖活動）

児童委員会「エコクラブ委員会」（5 年生 4 名、6 年生 4 名）のメンバーを中心に活動した。主な仕事は、敷地内にあるトミヨ池の水温測定（取水口と池の排水口）・池周辺の清掃・整備、水草の育ち具合を見て水草の補充（プランタに植えて沈ませる）をする。全校集会（トミヨ集会 11 月 24 日）で全校へアピールすることも大切な仕事の 1 つである。

熊谷市から保護繁殖の依頼を受け、20 匹のムサシトミヨが池に放流される。これを 1 年かけて大切に育て、1 年後にどのくらい増えているかを調べた。（繁殖調査）今年は、11 月 1 日（木）に行われ、83 匹のムサシトミヨを確認できた。毎年 11 月に環境科学国際センターの金澤光さんのご指導をいただきながら、熊谷市の環境政策課や、地域のムサシトミヨを守る会の方々とともにいった。池の水を抜きながら水草やプランターを水から出し、その中にいるムサシトミヨを見つけ大きさに沿って並べ、数や生態を調べる。毎年作業が終わるとトミヨ池に 20 匹をもどし、残りは市の職員や守る会の方といっしょに近くを流れる元荒川に放流する。

また、今年度も「ムサシトミヨ繁殖報告会」に参加し、ムサシトミヨを守る大

切さについて報告してきた。

## ②食育（全校で取り組んだ食育授業）

### ○1年生の授業（特活）「正しいおはしのもちかたでおはしの先生になろう」

いろいろな箸の持ち方で食事をする児童が増えてきていることから、正しい箸の持ち方を学習することで食べる姿勢がよくなったり、鉛筆の持ち方もよくなったりした。また、正しい箸の持ち方を手作りの教材で、楽しく実践を取り入れ再確認しながら学習した。

### ○2年生の授業（特活）「食べもののはたらきについて知ろう」

給食で使用されているいろいろな食品を知り、その働きがわかったことで好き嫌いをしないで食べようとする姿が見られ、給食の残量も減ってきました。授業では、ワークシートの活用により、家庭でもバランスよく食べようとする意識が高まった。

### ○3年生の授業（特活）「すききらいをしないで食べよう」

食品の3つ（赤・青・黄）の働きを知り、給食の献立は3色がバランスよく取り入れられて作られていることに気付き、残さず食べようとする態度が身に付いた。

### ○4年生の授業「すくすく育つためにはどんなことに気をつけたらよいか」

授業当日の給食献立から3つに分類した食べ物が自分たちの成長にどのように関わっているのかを知ることで、3色の食品の役割を意識して成長するためにバランスよく食べようとする意欲が見られた。

### ○5年生の授業「食べて元気に」

見やすく分かりやすい教具の活用で興味・関心をもって授業に臨むことができた。三大栄養素と合わせて五大栄養素の役割を知ることで、バランスよく食べることの大切さを理解させることができた。

### ○6年生授業「バランスのよい1日分の食事を考えよう」

三食しっかり食べることは大事だと分かっているが「どのように」となると漠然としていたが、学習を通して科学的な視点から一日分の必要栄養素を知ったことで三食をバランスよく食べることの大切さを知り、一日分の献立を意欲的に立てることができた。



## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="radio"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="radio"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="radio"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input type="radio"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="radio"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="radio"/> 1. 教科の時間	<input type="radio"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="radio"/> 3. 特別活動等	<input type="radio"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

総合的な学習の時間「久下っ子タイム」では、各学年の発達段階に応じて、環境保全に関わる内容を位置付けて学習活動を行っている。  
例えば第3学年では、「トミヨのすむ元荒川」で、ムサシトミヨの繁殖調査の見学、生態に関する調査、元荒川の環境保護に関する活動を行っている。  
また、第5学年では、「赤城山の自然を知ろう」で学校周辺の自然を赤城山の自然と比較し、そのよさを見直し、考えを深められるような学習の展開を工夫している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

児童委員会にエコクラブ委員会を設置し、トミヨ池の環境整備を中心として常時活動を行っている。また、ムサシトミヨを守る会、蛍愛好会の方々と協力し、年間行事として蛍鑑賞会、ムサシトミヨ繁殖調査を行い、地域の方にも参加をしていただいて、久下の環境保全に関心を持ってもらえるよう工夫している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

--

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

ムサシトミヨの繁殖報告会、発表会等に参加して活動報告を行い、他校との情報交換をし、活動の改善に生かすことができた。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)  
(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

ムサシトミヨの保護活動については、学区内にあるムサシトミヨ保護センターやムサシトミヨを守る会、近隣の小中学校と連携して、活動を行っている。

蛍の保護活動では、学校内に蛍の飼育小屋を設置し、蛍愛好会の方の指導助言をいただきながら、蛍鑑賞会等の活動を行っている。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度)

※チェック事項 2-4 に対応

--

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）

※チェック事項 2-5 に対応

蛍鑑賞会には、地域の方が大勢集まり、元荒川に放流した蛍の光を楽しみながら、交流することができている。また、ムサシトミヨの保護活動を行うことにより、児童の環境保全への考えが深まり、地域への愛着が高まってきている。

- （3）平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- ・エコクラブ委員会の常時活動として、トミヨ池の水温調査と環境整備
- ・元荒川河川敷清掃（6月）
- ・蛍鑑賞会（6月）
- ・ムサシトミヨ繁殖調査（11月）
- ・繁殖報告会（年2回）
- ・エコクラブ委員会によるトミヨ集会（12月）